

配浪人守護寺家及船橋、而國吏稱非永例、比年無充、望請重被下知、永配浪人、視護寺家及船橋太政官處分、依請焉。○又見類聚三代格

〔京羽二重〕渡

木津渡 同郡○相樂 木津庄ニ有、上古バ泉橋寺ノ南一町ニ橋有、此水源は今の橋より二里計巽、飛鳥路有市、兩村其源也、是やましろ伊賀の界なり、

〔夫木和歌抄〕二十四題不知

泉河こまのわたりのとまりにもまだみぬ人の戀しきやなぞ

よみ人不知

〔催馬樂〕呂 山城 三段、拍子各十、合拍子三十、空拍子、

山しろのこまのわたりの、うりつくり、なよらいしなや、さいしなや、うりつくり、うりつくりはれ○下略

〔催馬樂入文〕中 山まろのこまのわたりのうりつくり、今按に、和名抄に、山城國大狢、下狢、之毛都

古末行囊抄南遊下に、椿井村、林村、上狢村とついで、云、狢村は自路左方、行程十餘町ニ在、或ハ

狢ノ大里村トモ云、此邊狢郷也、木津、渡ニ近シ、名所也、昔熟瓜ノ名物ヲ出シタル所ナリ云々、或

紀行云、狢の里は、木津川のわたりのこなたなり、東の山際にあるを見やりて、略歌とばいひけれ

ど、行道遠し、日もたけぬといへば、木津川をわたる、萬葉に、狢山になくほと、ぎす泉川わた

り、をかみこ、にかよはず、已上行か、れば古歌に、狢の渡とよめるも、此木津川の舟渡しの事

也。今此にわたりと云は、あたりの轉語也、混すべからず、

〔蜻蛉日記〕上 いづみがはもわたりて、はしでらといふところにとまりぬ、○中略 あくればかはわたりていくに、○下略

〔萬葉集〕十三問答歌